

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

第5学年国語科学習指導案

単元名 受けついでく つながってく 広がってく 心おどる 日本の文化 ～パンフレット to the 和～ ~~和の文化 パンフレットで伝えよう（仮）~~

学習材名「和の文化について調べよう」（東京書籍 5年）

日時：令和5年12月11日(月)5校時

児童：板橋区立紅梅小学校 第5学年3組 39名

指導者：板橋区立紅梅小学校 教諭 富永 菜緒

1 単元の目標

- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 ((1)オ) ②情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。 ((2)イ)	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①進んで読み手に伝わる文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習課題に沿って表現の仕方を工夫し、パンフレットを書こうとしている。

3 単元構想

(1)児童について（児童観）

本学級の児童は、書くことの学習に課題意識をもっている児童が多い。自分の考えを文章で表現したり、条件に合わせて文章を書いたりすることに自信がもてない様子である。自分なりの言葉を使って、適切に文章で表現できる児童がいる一方で、資料の文言をそのまま書き写したり、書き始めるまでに時間を要したりする児童も多い。

「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」では、本文を読んで文章の構成を捉え、要旨をまとめた。「書き手の意図を考えよう」では、新聞記事の構成を確かめ、写真や見出しの役割や文章との関係を考えたり、記事に合った見出しを書いたりする学習を行った。また、「注文の多い料理店」では、物語の面白さを解説員として文章にまとめる学習に取り組んだ。その際、小見出しをつけながら文章をまとめた。

本単元を行うにあたり国語の学習や言葉に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりである。

（令和5年11月7日実施 39名 欠席1名）

質問	児童の回答	人数（割合※小数第1位四捨五入）
①国語科の学習は好きですか。 （選択式）	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	9名（24%） 23名（61%） 4名（10%） 2名（5%）
②国語科の学習では、どの学習が好きですか。 （選択式・複数回答）	・物語文を読む学習 ・説明文を読む学習 ・スピーチ、話し合い、発表などの話すこと・聞くことの学習 ・文章を書く学習 ・言葉についての学習 ・漢字についての学習	22名（60%） 5名（14%） 7名（19%） 8名（21%） 7名（18%） 25名（66%）
③文章を書くことは得意ですか。 （選択式）	・得意 ・どちらかといえば得意 ・どちらかといえば得意ではない ・得意ではない	4名（11%） 13名（34%） 13名（34%） 8名（21%）
④書くことの学習で難しいと感じることはどんなことですか。 （記述式）	・自分の考えを書くこと（心情、感想） ・漢字を使って書くこと ・長文を書くこと ・何を書くか、書くことが思い浮かばない ・内容をまとめて書くこと ・構成 ・言葉の選択や工夫 ・句読点の付け方 ・分かりやすく書くこと ・未記入	12名（24%） 5名（10%） 7名（14%） 8名（16%） 4名（8%） 2名（4%） 5名（10%） 2名（4%） 1名（2%） 3名（6%）
⑤新聞を書いたときに工夫したことはどんなことですか。 （選択式・複数回答）	・記事の内容 ・図や写真、イラスト ・文字の大きさや色味、書体 ・見出し ・記事の構成 ・新聞名	19名（50%） 23名（61%） 17名（45%） 16名（42%） 12名（32%） 12名（32%）

意識調査の結果から、国語科の学習に対し、数名の児童が国語を好きではないと感じている。特に書くことに対して半数の児童が苦手意識をもっていることが分かる。書くことの学習で難しいと感じることとしては、自分の考えを表現することや書く内容を考えることを挙げている児童が多く、自分の考えをもったり、自分の思いを適切に表現したりすることに困難を抱えている。また、読み手を意識して言葉を選択したり表現を工夫したりすることを意識して書くことができていないことも意識調査から分かる。

「新聞を書いたときに工夫したことはどんなことですか」という問いに対しては、図や写真、イラストや記事の内容と答えた児童が多く、見出しや内容の構成を挙げた児童は少なかった。授業中の様子に目を向けても、

自身が伝えたいことを短くまとめて書くことにのみ着目して、読み手を意識して言葉を選んだり、表現を工夫したりしていた児童は少なかった。

これらの実態から、まずは書きたいという気持ちをもたせ、主体的に書く学習に取り組めるようにする。書き手の意図だけでなく、読み手の意識をもたせることで、文章全体の構成や展開を考えたり、自分の伝えたい内容を適切に表現できるよう語感や言葉の使い方を工夫して使おうとしたりする学習を行いたいと考えた。

(2)学習材について（学習材観）

学習材「和の文化を調べよう」は、「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」で学んだ文章構成や要旨の把握、「新聞記事を読み比べよう」で学んだ写真や見出しと文章を関係付けなど、既習事項との関連を意識させることのできる学習材である。また、前単元で和菓子を題材とした教材文「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」を学習し、自分たちの生活の中には、受け継がれてきた和の文化がたくさんあることや和の文化を受け継ぐ担い手となるのが自分たちであることに気づき、児童の中で和の文化への興味・関心が高まっている。

さらに、教材文で序論・本論・結論の文章の構成を確認したり、「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の三つの説明の観点や資料の使い方にも触れたりしている。そのため、和の文化を受け継ぐという思いをもち、自分たちで題材や伝えたい相手を設定することで、児童が主体的に必要な情報を集めたり、集めた情報を観点に沿って整理したりし、調べたことを報告する活動につなげることができると考える。

ここでは、調べたことを報告する方法をパンフレットとした。一般的に、案内・説明・広告などを記載した仮とじの表紙を除いて5ページから48ページまでの小冊子をパンフレットと呼称する。単元当初には教師が集めておいた様々な用途のパンフレットを紹介するが、学習の参考としては、見出しと一定量の文章、資料が揃っているものを主に示す。報告する方法をパンフレットにすることで、自分の思いを伝えるだけでなく、読み手を意識した工夫の存在に気付くことができる。これは、相手意識や目的意識に応じて書く内容を精査したり書き方を変えたりすることの必要性を実感するきっかけとなり、見出しを考える際に、言葉や表現の工夫に着目させることで、「言葉による見方・考え方」を働かせ、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して使おうとする力を身に付けさせることができると考えた。

本単元では、パンフレットの見出しの工夫として以下のものを想定し、児童の気づきや参考資料に応じて示していく。

・類義語	・表記の変更（カタカナや平仮名、英語）	・読者への呼びかけ	・副助詞の活用	・文語調				
・七五調	・同音異義語	・方言	・比喻	・倒置法	・感嘆符	・オノマトペ	・韻	・対比

(3)単元について（単元観）

本単元は、パンフレットを作ることを通して、観点に沿って集めた情報と情報を整理して文章にまとめたり、自分の伝えたいことを相手によりよく伝えるために文章全体の構成や語句の使い方を工夫したりすることを目的とした単元である。パンフレットの読み手を意識し、自分の伝えたいことをよりよく伝えるための文章の構成を考えたり、資料を活用したり、語句を工夫して使ったりする活動を通して、表現の効果を意識して日常でも使ってみようとする意識を高めたい。

本単元における「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、取り上げた言葉の意味や効果に着目し、言葉と言葉を比較するなど概念的思考を用いて考え、より適切に判断しようとすることと捉えた。学習を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせることで、より自分の思いが伝わるようになることを児童が実感できるようにしていきたい。

そこで、単元全体を「出合う」「親しむ」「生かす」の三つの段階で構成した。

【出合う】日本文化を受け継ぐためにできることを話し合い、知らせる方法としてのパンフレットに触れる。
【親しむ】既存のパンフレットから参考にしたい語彙や表現の工夫を見付け、『語い力帳』に書き溜め、その言葉を活用しながらパンフレットを作成する。
【生かす】日常生活の中で、読み手への効果を考えて書いたり、書き手を意識して読んだりする。

「出合う」段階では、教材文「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」を使った前単元の学習を受けて、日本の文化を受け継ぐために自分たちができることについて考えさせる。そして、パンフレットの役割やその効果に触れることで、和の文化をパンフレットに書いて伝えたいという思いを高めていく。そこで、より分かりやすく伝えるためにはどのようなパンフレットがよいのかという児童の思いから、単元の学習課題「和の文化を工夫して伝えるパンフレットを書こう」を設定し、パンフレットを工夫して書くという学習の見通しをもつ。

「親しむ」段階では、パンフレットの題材や読み手を設定し、必要な情報を収集していく。話し合いの中で、収集した情報を観点に沿って整理し、パンフレットの構成を考えていく。その際、「自分の思いがよりよく伝わるように」「相手を読みたくなるように」という2つの視点をもたせる。構成メモが出来上がったら、それに基

づいて紙面を分担し、パンフレットの下書きを書く。単元の終末では、下書きで書いた見出しと内容がさらに適切なものになるよう推敲する。その際、「言葉による見方・考え方」を働かせ、自分の思いによりびつたりとなる言葉を選んだり、読み手が読みたくなる表現の工夫をしたりする活動に取り組む。

「生かす」段階では、完成したパンフレットを互いに読み合い、言葉や表現の工夫を見付けて伝えたり、読み手が意識されているか考えたりする。単元の終了後は、自分の思いを言語化する際に、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、文章を書く姿を期待したい。また、「読み手」と「書き手」の存在を実感し、読むときや書くときに、相手の意図を考えようとする中で、お互いの意図を尊重し、理解し合おうとする豊かな言語生活へとつながることを期待したい。

4 言語部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

言語部では「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉に着目し、意味や役割、効果を考え、意識して使おうとすること」であると考えられる。

児童が、自分の思いを表現したり情報を基に自分の考えを形成したりしようとする際に、言葉の意味や効果に着目し（言葉による見方）、比較や類推等の概念的思考を働かせて考え（言葉による考え方）、より適切に判断しようとしている姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」姿である。さらに、「言葉による見方・考え方」を働かせたことを振り返り、「言葉のよさ（役割や効果）」を実感することで、言葉への自覚を高めることができる。これらの経験を重ねていくことが、児童の語彙を豊かにし、豊かな言語生活者を育てていくことにつながると考える。

「書くこと」の学習では、様々な言葉や表現に着目し（言葉による見方）、比較したり類推したりして（言葉による考え方）、自分の思いや伝えたい内容に適切な言葉や表現を選択しようとする中で、「言葉による見方・考え方を働かせる」ことであると考えられる。それぞれの学習過程の中で、どの言葉や表現がより適切なのかを比較し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して最適なものはどれかを考え判断しようとする際に、「言葉による見方・考え方を働かせる」のである。

「言葉による見方」は、知識及び技能の内容の（1）言葉の特徴や使い方に関する事項から、「語彙」「表現の技法」「文や文章」を取り上げた。「言葉による考え方」は、知識及び技能の内容の（2）情報の扱い方に関する事項の「情報と情報との関係」「情報の整理」や先行研究を参考に概念的思考を設定した。

		低学年	中学年	高学年
言葉による見方	語彙	身近なことを表す語句	様子や行動、気持ちや性格を表す語句	思考に関わる語句
	表現の技法	（比喻・反復などの表現の工夫）	（比喻・反復などの表現の工夫）	比喻・反復などの表現の工夫
	文や文章	主語と述語との関係	主語と述語との関係 修飾と被修飾との関係 指示する語句と接続する語句の役割 段落の役割	語句の係り方や語順 文と文の接続の関係 話や文章の構成や展開 話や文章の種類とその特徴
言葉による考え方	概念的思考	比較 類推	因果 分類	分解 抽象化 具体化 系統化 一般化

どの言葉や表現がより適切なのかを比較する際には、語句をより理解するための方策「①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化」を使って考える。その際、友達とどのような言葉や表現があるかを出し合ったり、それぞれの言葉や表現からどのような印象を受けるかを話し合ったりすることが欠かせない。他者と協働することにより、「新たな言葉との出会い」や「言葉の意味や役割、効果」「人による感じ方の違い」等に気付き、言葉への理解を広げたり深めたりすることができるのである。学習の中でこれらの経験を重ねることで、児童の言語感覚を耕し、語彙を豊かにしていく。このような学習を継続することが、豊かな言語生活の実現につながると考えた。

言語部では「豊かな言語生活」について、三つの側面から捉えている。

ア：言葉そのものへの興味・関心

言葉を意識し、言葉に関心をもって生活し、言葉に親しんでいる。

- ・言葉の並びやリズム、韻や言い回しのおもしろさや心地よさを楽しんでいる。
- ・言葉遊びや短歌・俳句、伝統的な言語文化などを楽しんでいる。
- ・言葉に出合ったとき、「おもしろいな」「かっこいいな」「すてきだな」などの思いをもって生活している。
- ・気になる言葉に出合った際、意味や使い方を調べたり、いつか使ってみよう書き留めたりしている。
- ・その言葉の仲間が他にもないかと調べたり集めたりしている。

イ：自己内対話

自分の思いを言葉にすることにより意識化し、感性や情緒、思考を活性化したり明確化したりしながら内言を充実させている。

- ・言葉を用いて論理的に思考し、自分の考えを広げたり整理したりしている。
- ・自分の中にある漠然とした思いを言語化することで感情を明確にしたり豊かにしたりしている。
- ・書いたり話したりする際に、自分なりのこだわりをもって言葉や表現を選択し、使おうとしている。

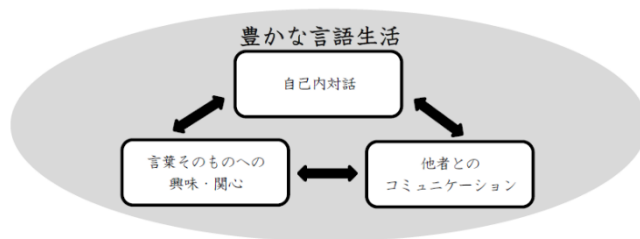
ウ：他者とのコミュニケーション

言葉の働きを意識して、思いや考えを他者とよりよく伝え合おうとしている。

- ・発表や話し合い、交渉などで、考えを伝え合い、理解を深めたり問題を解決したりしている。
- ・他者と関わり合う際に、言葉から相手の思いを理解し、円滑なコミュニケーションを取っている。
- ・言葉には人間関係を構築する働きがあることを意識し、言葉を介して他者と良好な人間関係を築いていこうとしている。

これらの三つの側面は、互いに関連し合っている。「Aという言葉があるんだ。面白いな」という「言葉そのものへの興味・関心」の側面が、「このことを書くときにあのAという言葉を使ってみようかな」という「自己内対話」の側面につながり、「○○さんにこのことを伝えるためには、あのAという言葉を使うのはどうかな」という「他者とのコミュニケーション」の側面にもつながる。

このように、それぞれの側面を往還しながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていく。言葉に親しんだり「言葉による見方・考え方」を働かせたりする経験を重ね、児童の語彙を充実させていく学習を継続することが、児童の言語生活の充実につながる。そして、言語生活が充実することで豊かな言語生活者が育っていくのだと考える。



5 研究主題に迫るために

本単元で重点を置きたい「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、取り上げた言葉の意味や効果に着目し、言葉と言葉を比較するなど概念的思考を用いて考え、判断しようとすることである。

自分たちが選んだ和の文化をより多くの人に分かりやすく伝えるためには、自分の思いを表すだけでなく、読み手に読んでみたいという気持ちを起こさせる必要がある。児童は、パンフレットを書く際、調べた情報を整理したり選択したりして、文章や資料を作成している。その選定基準は、「読み手に伝えたい日本の文化のよさ」であり、自身の経験や関心、調査の中で見出した発見や感動を基にして形作っていくこととなる。一人一人の記事に付く見出しは、その内容が一目見て分かる表題となる。したがって、見出しは、「書き手側が伝えたい内容と合っている」「読み手側に読みたいと思わせる」という二つの視点を重視していく。「言葉による見方・考え方」を働かせ、「より適した言葉があるかもしれない」「読み手に興味をもたせるにはどの表現を使うとよいか」と言葉に立ち止まって考え、よりよく伝わる表現にできるのではないかと考える。初めに思い付いた言葉を基に、類語を確認してより適した語句を探したり、呼び掛けや副助詞の活用、七五調や韻といったリズム、表記等を工夫したりと、伝えたい内容に沿って、さらに読み手を引き付ける見出しを工夫していく。協働的な学びの中で、読み手がどう感じるかを共有することで、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉を自覚的に使う経験としていきたい。

本単元で、「言葉による見方・考え方」を働かせた経験が、次の単元や日常生活の中で生きてくる。これらの経験を重ねることで、語彙が増え、豊かな言語生活の育成につながると考える。

研究主題に迫るために【出会う】【親しむ】【生かす】の三段階の単元構成とした。

(1)児童が(本単元において)身に付けた力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

①パンフレットの役割や効果の把握と参考文例としての活用

【出合う】段階では、前单元「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」の筆者の思いを受け、自分たちが日本文化を受け継ぐためにできることを話し合わせることで、和の文化について調べて知らせたいという思いを高めるようにする。そして、知らせる方法として、パンフレットがあることに触れ、児童とのやりとりの中で、その効果や工夫などに気付かせることで、和の文化をパンフレットに書いて伝えることに意欲をもたせる。

【親しむ】段階では、既存のパンフレットから参考にしたい見出しを見付け、記録するという活動を継続して行うことで、語彙や表現の工夫に触れさせておく。自分の思いを伝える方法を考える際に、日常生活の中にある実際のパンフレットを活用することは、学びの場を教室の中に留めずに、より広く様々なものから学びを得ていく姿勢にもつながるだろう。また、常時行っている語句調べと文作りの活動を生かし、気になった語彙を各自の「語いカ帳」に書き留めていくことで、関心のある言葉を自分の手元に収集していく機会となり、自分が作成する際の参考にもできると考えた。

「語いカ帳」とは、児童の語彙力を養うために活用しているものである。児童に詳しく知りたい言葉を3つ提示してもらい、その言葉を活用しながら文章を作成する。1学期から学級で日常的に取り組んできた活動の際に作成したノートである。

②学習課題、学習計画や单元名の作成

題材は何か、誰に伝えたいか、どのような紙面にしたいか等を児童に考えさせ、こんなパンフレットを書きたいという思いが高まったところで、単元の学習課題を設定し、大まかな学習計画を立てる。その後、自分たちが学ぶ单元として、单元名を作成する。これらの活動を通して、児童が身に付けたい力を自覚し、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができると考えた。

本单元での学びだけで終結するのではなく、生活の中にあるパンフレットという媒体についての構成や表現の工夫を生かそうとする意識をもたせていく。読み手を意識し、言葉による見方・考え方を働かせて書くことで、より自分の思いが伝わる文章になるのだということを自覚し、今後の学習や日常生活の中で活用することができるようになることを目指す。また、書き手が読み手を意識していると実感することで、読むことにおいて、書き手の意図を考えようとする意識の大切さにも気付かせたい。

(2)学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

①多様なパンフレットからの気付きの共有

単元の当初に、多様なパンフレットと出会い、その役割や効果について考える。形状やレイアウト、写真や資料、フォントや色彩など、文章以外の工夫も多岐に渡る。気が付いたことを共有することで、様々な視点を得ることができよう。

また、今回特に着目させる見出しについては、単元の当初から推敲の場面までに、よいと感じた見出しとその理由を、付箋を使って収集し、掲示していく。これにより、関心を継続させるとともに、お互いのよい発見を共有し、自身の記事作成にも生かせると考えた。その際に学級に「推し見出しコーナー」を設けた。児童が気に入ったパンフレットの見出しをいつでも掲示できるようにしている。推し見出しと共に、なぜその見出しが好きなのか理由を書くようにした。さらに、推し見出しから気になる言葉を調べる活動を行い、児童の語感を高めていく。

②情報収集・構成を協働で行う

パンフレット作りは、グループで協働して行う。書きたい話題の希望を取り、教師が意図的に編成する。紹介する内容の項目立ては、既習の説明文から得たものを基本とするが、調査を進めながら追加・変更を行ってもよいものとし、班で協力して情報を収集・整理・選択する。パンフレット全体の構成を決定するところまでをグループで話し合いながら進め、担当を分担する。その後、分担した紙面の構成と記述は分担して個人で行う。情報の収集や整理・選択を協働で行うことで、構成メモや記述のアドバイスをグループ内で行うことができる。

推敲の場面では、「伝えたいことにぴったりか」「読み手が読みたくなるか」という視点で見直しを行う。文章の内容に合った見出しとなっているか、読み手の興味を引く語句や表現方法を工夫しているか、伝えたい内容が明確に伝わる文章になっているかなど、文章と見出しとの関係も意識しながらお互いに読み合い、アドバイスをを行う。情報の収集・選択やパンフレットの構成を協働で行っているからこそ、「伝えたいことにぴったりか」という視点で言葉や表現の吟味を行うことができる。また、「読みたいと感じるか」という客観的な視点を推敲に生かすことができるとともに、他者に伝える文章において「読み手を意識する」重要性を実感できるだろう。残したい和の文化を人に伝える、という自分の思いを大切にしたい文章においても、相手

に伝えるためにはまず興味・関心をもってもらう必要があり、読み手が知りたいと感じる示し方をすることは効果的であることに気付かせたい。

(3)獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

【生かす】段階では、完成したパンフレットを学級で読み合っ、見出しや内容、書き方の工夫等について、いいところを伝え合う。見出しや内容をよりよくするための視点として、類義語や読み手への呼びかけ、オノマトペや韻などの表現の工夫を見付けて伝えたり、読み手が意識されているか考えたりする。単元終了後の生活の中で、読み手への効果を考えて書いたり書き手を意識して読んだりする。

本単元で児童は、読み手を意識して、言葉を選んだり表現の工夫を使ったりすることで、自分の思いがよりよく伝わる文章になることを学ぶ。そこで、自分の思いを言語化する際に、「言葉による見方・考え方」を働かせ、どの言葉や表現が適しているのか推敲する経験を積むことで、語感や言葉に対する感覚を高める。

単元終了後には、以下の姿が現れることを期待したい。

ア：学んだことを生かして、文章全体の構成や展開を考えたり、効果的に資料を使ったりして、分かりやすく書こうとしている。

イ：見出しやキャッチフレーズの効果を認識し、語感や言葉の使い方について意識して使っている。

ウ：書くことにおいて、「読み手」と「書き手」の存在を実感し、読むときや書くときに、相手の意図を考えようとしている。

相手に伝わる文章を書こうとする際に、伝えたいことを明確に文章にして、理解を助ける資料等を的確に活用することを目指して表現していく。また、同時に読み手としても、書かれている内容を的確に読み取り、書き手の意図を考えることで、相手の伝えたいことを受け止める。双方向の言葉の力を活用することで、お互いの意図を尊重し、理解し合おうとする豊かな言語生活へとつながるだろう。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
出 合 い	1	伝えたい話題を決め、パンフレットの良さを知る。 ①「和の文化」について、アンケートを活用し、自分たちの知識や思いを考える。 ②何について、誰に伝えたいのか、考えを出し合う。 ③パンフレットに触れ、その役割や構造、効果など気が付いたことを出し合い、見出しの工夫に着目する。	○教材文で学習したことを想起させ、和の文化を引き継ぐにはどうしたらよいか考えさせる。 ○相手のイメージを膨らませられるようにする。 ○パンフレットの役割を知り、パンフレットの良さや見出しやキャッチフレーズの工夫に着目させる。 ○パンフレットを書いて伝えてみたいという意欲を高める。	
	2	学習計画を立て、見通しをもち、単元名を考える。 話題と取材の方法を決める。 ①伝えたい和の文化ごとにグループを作成する。 ②誰に伝えるのかを考える。 ③学習課題を設定する。 「和の文化 パンフレットで伝えよう(仮)」 ④どんなパンフレットがいいのかを考えてモデル文を確かめ、必要な活動や決めることを整理し学習計画と単元名を考える。	○目的と相手意識を明確にさせる。 ○やり取りをしながら学習課題と単元名を考え、活動の見通しをもつことができるようにする。 ○既存のパンフレットを提示し、よく伝わるものや読みたくなるものを参考に考えさせる。 ○パンフレットの構成を確認させる。	

親しむ	課外	◇自分たちのパンフレット作りに参考になるパンフレットを見付ける。	○複数のパンフレットに触れ、気に入ったものを見付けさせる。 ○「推し見出しコーナー」に理由を含めて、掲示する。 ○「推し見出しコーナー」に気になる言葉を見付け、調べて集めていく。	
	3	観点に沿って必要な情報を集める。 ①既習の内容を生かし、基本となる観点を確認する。 ②調べ方や引用の仕方、カードの書き方を確かめる。 ③書籍やインタビュー等を活用して、情報を収集し、カードにメモしていく。 ④調べる中で新たに観点が出てきた場合は、随時話し合う。	○教材文では、「歴史・他の文化との関わり・支える人々」の観点で説明されていたことを確認する。 ○情報元を確かめ、出典を明らかにさせる。 ○情報収集の期間を数日とする。	
	4	集めた情報を整理し、パンフレットの構成を考える。 ①パンフレットの本の構成や、紙面のレイアウト例を基に、気を付けることを考える。 ②集めたカードを整理する。 ③グループで、構成やレイアウト、使う資料等をどうするのかを確かめ、伝えたい順番を決定する。 ④必要な情報で足りないものはないか、追加したい資料はないかを確認する。 ⑤書く記事の担当を決める。	○伝えたいことをはっきりさせるためには、どのような構成でどのような資料を活用するとよいのか意識できるようにする。 ○集めたパンフレットの紙面を参考に、自分たちが最も伝えたいことや読み手に知ってほしいことに沿って、パンフレットに載せる内容を考えさせる。 ○必要な場合は、追加の情報収集期間を取る。	◆情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。〔知・技②〕 ◆「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。〔思・表・判①〕 ★発言・カードの分類・ワークシートの書き込み。 ・カードを分類、整理・内容と資料の整合が取れているかの確認。
	5	パンフレットの構成に沿って、報告の文章を書く。 ①パンフレットの記事を通して、自分が読者に伝えたいことを考える。 ②パンフレットの下書きを行う。 ③グループ内で、文字の間違い等の校正を行う。	○集めた情報を使い、タブレット端末を使って文章を書かせる。 ○引用の仕方を確認しておく。 ○資料は、どこに載せれば効果があるかを説明の内容と関連付けて考えさせる。 ○伝えたい内容(観点)について分かりやすく書かれているかについても確認させる。	◆「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。〔思・表・判②〕 ★発言・ワークシート。 ・図表の使い方など、自分なりに表現を工夫しようとしているかの確認。

6 (本時)	<p>パンフレットの見出しや本文について、推敲する。</p> <p>①「語いカ帳」で集めた見出しや、児童が作成した見出しを共有する。</p> <p>②表現の工夫や語彙の選定による効果を確認する。</p> <p>③文章と見出しの関係について再確認し、推敲のやり方を知る。</p> <p>④グループの見出しを共有し、アドバイスし合う。</p> <p>⑤自分の見出しの再構成をする。</p>	<p>○なぜ読みたくなったのか理由を伝えさせる。</p> <p>○呼び掛けや問いかけ、言葉の使い方、記号の使用など言葉や表現の工夫を意識付ける。</p> <p>○言葉の意味や類義語を調べたり、語順を入れ替えたり、リズムをよくしたりするなど、書き表し方や表現の効果を考えて見出しにするよう伝える。</p> <p>○見出しが観点と合っているか、読みたくなるものになっているかを互いにアドバイスさせる。</p> <p>○見出しに合わせ、内容も言葉や表現の効果を考えて推敲できるよう意識させる。</p>	<p>◆進んで読み手に伝わる文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習課題に沿って表現の仕方を工夫し、パンフレットを書こうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>◆語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知・技①〕</p> <p>★発言・ワークシート。</p> <p>・言葉の使い方の感覚を意識し、表現を工夫した見出しになっているかの確認。</p>
生かす 7	<p>パンフレットを完成させ、共有して感想を伝え合う。</p> <p>①自分のページを完成させる。</p> <p>②パンフレットの形にまとめ、表紙を付ける。全体の内容を表したリード文を考える。</p> <p>③学級で読み合っ、見出しや内容、書き方の工夫等についていいところを伝え合う。</p>	<p>○自分たちと他のグループのパンフレットの構成や表現の工夫を比較して読み、語感や言葉に対する意識を高められるようにする。</p>	<p>◆語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知・技①〕</p> <p>★発言・振り返りの書き込み。</p> <p>・言葉の使い方や表現の工夫を捉えているかの確認。</p>
8	<p>単元の学習を振り返り、学んだことをまとめる。</p> <p>①単元の学習を振り返り、分かりやすく説明するための表現に対する自分の捉えの変容についてまとめる。</p>	<p>○読み手を意識し、文章の構成を考えたり、言葉の使い方を工夫したりすることで、相手により良く伝えることを意識できるようにする。</p> <p>○完成したパンフレットはALTの先生に読んでもらったり、学校図書館に展示したりする。</p>	<p>◆進んで読み手に伝わる文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習課題に沿って表現の仕方を工夫し、パンフレットを書こうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>★振り返りの記述。</p> <p>・構成や表現の工夫を生かそうとしているかの確認。</p>
単元後	<p>ア：学んだことを生かして、文章全体の構成や展開を考えたり、効果的に資料を使ったりして、分かりやすく書こうとしている。</p> <p>イ：見出しやキャッチフレーズの効果を認識し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して使っている。</p> <p>ウ：書くことにおいて、「読み手」と「書き手」の存在を実感し、読みときや書くときに、相手の意図を考えようとしている。</p>		

7 本時の学習

(1)本時のねらい

言葉の使い方や表現の効果について考えながら、見出しを工夫して表現することができる。

(2)本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○自分の書いたパンフレットについて、読みたいと思わせる見出しになるよう推敲していくことを確かめる。	
読み手に興味をもたせる見出しとなるように推敲しよう		
2 作成した見出しを確かめる。	○児童が作成した見出しやパンフレットから見付けた見出しの中から、よいと思ったものを一覧にして提示する。 ○「推し見出しコーナー」を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; text-align: center;">言葉による見方・考え方を働かせている場面(1)</div>	
3 見出しを工夫するよさや、効果を共有する。	○「比喩」、「呼び掛け」、「表記の仕方」、「副助詞」、「七五調や韻のリズム」など工夫、言葉の選択をすることを確かめる。 ○見出しを工夫することの良さを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><工夫する良さ> ①相手に伝えたいことが、さらに分かりやすくなる。 ②相手がパンフレットに興味をもつ。</div>	◆語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知・技①〕 ★発言・ワークシート ・言葉の使い方の感覚を意識し表現を工夫した見出しになっているかの確認。
4 班のメンバーの見出しを振り返り、アドバイスをする。 (1)言葉の意味を調べたり、類義語を集めたりする。 (2)語順を入れ替えたり、書き表し方を変えたり、リズムをよくしたりするなど、表現の効果を考える。 (3)内容と合った見出しになっているか考える。	○たくさんの考えを出し、ワークシートに残すよう伝える。 ○類義語では、類義語辞典を活用するよう促す。 ○言葉や表現の効果を使って、見出しを考えさせる。	○ <u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u> 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、表紙のキャッチフレーズを考えたり、他のグループの見出しの工夫についてアドバイスをしたりするよう助言する。 ○ <u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</u> 言葉の意味や表現の工夫に着目し、伝わり方の違いを考えるよう助言する。
5 自分の見出しを再構築する。	○その見出しを付けた理由を挙げるができるようにしておく。 (ワークシートに記入)	
6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うことで、よりよく伝わるようになることを確かめる。	

上学年分科会 単元名「受けついでいく つながっていく 広がっていく 心おどる 日本の文化
～パンフレット to the 和ールド～ (全8時間) 単元構造
学習材「和の文化について調べよう」(東京書籍 5年)

ねらい：文章全体の構成や展開を考えたり、図表やグラフなどを用いたり、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら見出しを考えたりして、自分の考えが伝わるようにパンフレットを書く。

出会う

親しむ

生かす

学習活動

1 出会い・題材の設定
伝えたい話題を決め、パンフレットのよさを知る。

- ①「和の文化」について、自分たちの知識や思いを考える。(アンケート活用)
- ②何について、誰に伝えたいのか、考えを出し合う。
- ③パンフレットに触れて、その役割や構造、効果など気が付いたことを出し合い、見出しの工夫に着目する。
※「パンフレット」案内・説明・広告などをのせた仮綴じの小冊子。6p～48pまでのもの。

2 見通し
学習計画を立て、見通しをもつ。単元名を考える。話題と取材の観点を決める。

- ①伝えたい和の文化ごとにグループを作成する。(希望を基に担任がグループ分けをする。)
- ②誰に伝えるのかを考える。
- ③学習課題を決める。
- ④どんなパンフレットがいいのかを考えてモデル文を確かめ、必要な活動や決めることを整理して、学習計画と単元名を考える。
※パンフレットの多様性を示したのち、本単元では、見出し＋一定量の文章＋資料のものを主に扱うこととする。参考になる見出しを収集し、『語い力帳』(言葉記録ノート)に記録する。

単元の学習課題…いろいろな人に読んでもらえるように工夫してパンフレットを書く

3 情報の収集
観点に沿って情報を集める。

- ①既習の内容を生かし、基本となる観点を確認する。
- ②調べ方やカードの書き方等を確かめる。
- ③書籍やインタビュー等を活用して、情報を収集し、カードにメモしていく。
※情報収集の期間を数日取る。
※できるだけ複数の参考資料を用意する。
※集めている情報を適宜確認し、必要な場合には支援を行う。

4 内容の検討・構成の検討
集めた情報を整理し、パンフレットの構成を考える。

- ①パンフレットの本の構成や、紙面のレイアウトの例を基に、気を付けることを考える。
- ②集めたカードを整理する。
- ③グループで、構成やレイアウト、使う資料等をどうするかを確かめ、構成メモを作る。
- ④必要な情報で足りないものはないか、追加したい資料はないかを確認する。
※必要な場合は、追加の情報収集の期間を取る。
※集めたパンフレットの紙面を参考に示す。

5 考えの形成・記述
構成に沿って、報告の文章を書く。

- 【読みの課題】
- ①パンフレットの記事を通して、自分が読者に伝えたいことを考える。
 - ②構成メモを基に、パンフレットの下書きを行う。
 - ③グループ内で、文字の間違い等の校正を行う。

6 推敲 (本時)
パンフレットの見出しや本文について、推敲をする。

- ①『語い力帳』の見出しや、児童が作成した見出しを共有する。
- ②表現の工夫や語いの選定による効果を確認する。
- ③文章と見出しの関係について再確認し、推敲のやり方を知る。
- ④グループの見出しを共有し、アドバイスをし合う。
・言葉の意味を調べたり、類義語を集めたりする。
・語順を入れ替えたり、書き表し方を変えたり、リズムをよくしたりして、表現の効果を考える。
- ⑤自分の見出しの再構成をする。

7 共有
パンフレットを完成させ、共有して感想を伝え合う。

- ①自分のページを完成させる。
- ②パンフレットの形にまとめ、表紙を付ける。全体の内容を表したサブタイトル等の文を考える。
- ③学級で読み合っ、見出しや内容、書き方の工夫等について、いいところを伝え合う。

8 まとめ
単元の学習を振り返り、学んだことをまとめる。

- ①単元の活動や感じたことをふり振り返り、単元のまとめを行う。
※作成したパンフレットを、ALTの先生に見せたあとに学校図書館に展示する。

◎言葉による見方・考え方

- 「和の文化」について、前の単元で学習したね。引き継ぐとしても、どうやって伝えていけばいいだろう。
- 伝えたい、残していきたい和の文化と相手を考えよう。
- 実際のパンフレットを見てみよう。写真があって分かりやすい。おもしろい見出しもあって、読んでみたくなる。
- これなら「和の文化」を伝えられそう。パンフレットを作ってみようよ。
- 一人で全部のことを調べて書くのは難しい。分担してページを作るのはどうだろう。

- 夏に見た花火は感動した。これからもずっと見たい。
- 図書室に置いたら、いろいろな人に読んでもらえる。
- 「和の文化」を残していきたいようになってもらえるように、文化のことがよく分かるパンフレットにしよう。
- まずは読んでもらわないといけなないね。工夫された見出しは読みたくなるよ。
- 写真ばかりじゃ、和の文化は伝えきれない。どんなパンフレットにしようかな。
- パンフレットを作るには、何をすればいいのかな。
- 学習の名前を付けよう。
- いい見出しがあったら、『語い力帳』に書き留めよう。

- 何をパンフレットに載せるのか、観点を考えよう。
- 前にやった説明文では、歴史や他の文化との関わり、支える人々について書かれていたね。
- 職人さんの思いを伝えたら、花火の魅力が読む人に伝わるんじゃないかな。
- 花火にもたくさん種類がありそうだから、調べてみたい。
- 調べる方法を確かめよう。
- 分担して、調べてこよう。
- メモが増えたよ。
- 調べてみて、伝えたい観点が出てきたから、それについても相談しよう。

- 調べてきたことを、整理しよう。これはどちらも歴史に入れられそう。並べて置こう。
- 文化のよさが伝わる順を考えよう。
- レイアウトには、このパンフレットが参考になるね。
- 花火の種類がどんどん増えているのはおもしろいね。このことも観点に加えたい。
- 資料は、この地図を使うといいんじゃないかな。花火の工場場所が分かる。
- 場所もいけれど、だんだん減っていていることもグラフで載せるといいと思う。もう少し探してみたい。
- どの観点を誰が書こうか。

- 読んだ人がその文化を残したくなるために、私の記事で伝えたいことはなんだろう。
- 集めた情報を使って、文章を書こう。デジタルだと読みやすいし、修正しやすいね。
- 見出しの下に、内容をまとめたリード文を付けるのもいいね。
- 年表があると分かりやすい。
- 写真は文章の近くに置こう。
- 文字や漢字の間違いはないか、お互いに読み合おう。
- この一文は長いから、文を分けた方がいいと思うよ。
- 職人さんの思いについて、△△さんのカードの、「過去と未来をつなぐ橋渡し」っていう言葉がぴったりでいいね。

- 集めた見出しや、作った見出しの中に、文章を読みたくなるものがあつたよ。
- なんで、この見出しは「読みたい」って思うんだろう？どんな効果があるのかな。
- 呼びかけや問かけがあると、自分も考えるし、答えを知りたくなるんじゃないか。
- 「秘策」って言われたら、なんだろうって読みたくなる。
- 見出しだけ目立っても、内容が違っているよくない。
- 伝えたいことに合った見出しにしたい。言葉を考えよう。
- 似た意味で、こんな言い方もあるよ。
- いいね。読みたいて感じる見出しになったよ。

- 着物の良さがよく分かるパンフレットになったね。私も、お母さんから浴衣を譲り受けたい。
- みんなで作ったパンフレットの表紙にも、工夫して文を付けよう。
- クイズになっている見出しがあるから、中をもっと読みたくなったよ。
- 「つなげる覚悟」という見出しで、中を読んだら職人さんの熱い思いが書いてあったから、この文化を大事にしようと思ったよ。
- グラフがあると、花火の工場数の変化が分かって、大事にしたいね。

- 「和の文化」について、自分も知ることができたよ。
- 読んだ6年生が感想をくれて嬉しかったよ。おじいちゃんにも見せたい。また花火をやろう。
- パンフレットの見出しは、少し情報を隠しておく、続きが知りたくなる見出しになるね。
- パンフレットをもらうことがあるから、よく見てみよう。
- 文章を書くときには、読み手を意識することが大事なんだな。
- このパンフレットやリーフレットの見出しも、僕たち読み手を意識しているんだな。

知識・技能

(2) 情報イ 情報の整理 情報と情報との関係付けの仕方
○集めてきた情報カードを分類したり整理したりすることで、自分たちが伝えたい内容になっているか、十分に資料が足りているか等を判断する。伝えたいことと資料等を照らし合わせ、適否を判断する。

(1) 言葉オ 語彙 語感や言葉の使い方に対する感覚
○言葉や文、文章について、内容に沿って、相手を読みたくなる言葉や表現方法について知る。
○言葉や文、文章について、相手を読みたいと感じるものになっているか、表したい内容と合っているかという視点で、適切さを判断しながら文の中で使う。

自己調整力

- 伝えたい相手や目的に応じて、学習課題を決めたり学習計画を立てたりしている。
- 情報を調べて集める方法を考えている。
- 学習の参考になる見出しと選んだ理由をパンフレットから集めて、個人の記録用ノート『語い力帳』に記録している。

- 集めた情報が適切か、十分かについて検討し、追加の情報収集について計画を立てている。

- 文章や資料、レイアウト等が、伝えたい相手や目的に沿っているかを確かめて調整している。

- 自分のページを読み直して、より「読みたくなるか」「内容と合っているか」という視点で推敲している。

- 単元のめあてと照らし合わせて、自分の学習を振り返り、学びをこれからに生かす方法を考えている。

他者との協働

- パンフレットについて、気が付いたことを共有し、その特徴について考えている。

- 集めた情報を共有し、整理している。

- 集めた情報を共有し、整理している。
- 構成やレイアウト、使う資料等について構成メモを作る。

- パンフレットの見出しに注目して、その特徴を話し合う。
- お互いに見出しが伝えたい内容と合っているか、読みたくなるかをアドバイスし合う。

- 完成したパンフレットのよいところを伝え合う。
- 「読みたくなるか」「内容と合っているか」という視点で感想を伝え合う。

評価

知・技(2)イ
情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。
思・判・表B(1)イ
「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。
思・判・表B(1)エ
「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

知・技(1)オ
語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。
主体的
進んで読み手に伝わる文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習課題に沿って表現の仕方を工夫し、パンフレットを書くとしている。

主体的
進んで読み手に伝わる文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習課題に沿って表現の仕方を工夫し、パンフレットを書くとしている。
次単元の指導に生かす

豊かな言語生活

単元終了後の日常生活において
ア 学んだことを生かして、文章全体の構成や展開を考えたり、効果的に資料を使ったりして、分かりやすく書こうとしている。
イ 見出しやキャッチフレーズの効果を認識し、語感や言葉の使い方について意識して使っている。
ウ 書くことにおいて、「読み手」と「書き手」の存在を実感し、読むときや書くときに、相手の意図を考えようとしている。